

## 学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

平成28年度

学校名	筑波大学附属聴覚特別支援学校
-----	----------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-1	説明、板書、発問など、各教員の授業の実施方法	教職員は、幼児児童生徒の発達段階や障害の特性を正しくとらえ、専門性と教科指導力、生活支援等の向上に努めた。各学部の授業は、第50回全日本聾教育研究大会（附属大会）や文部科学省と共催の聴覚障害教育担当教員講習会等で公開した。
1-1-7	コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業の状況	情報環境の整備を計画的に行っている。中高等部普通科・専攻科においては、教科指導の中にICT教材を積極的に取り入れている。その成果は、第50回全日本聾教育研究大会（附属大会）や文部科学省と共催の聴覚障害教育担当教員講習会等で公表した。
2-1-6	保護者や地域社会、企業等との連携協力の状況	文化祭は、保護者や同窓会が積極的に支援してくれた。学校評議員の方々はじめ、地域住民の来校が多くあった。高等部専攻科は、都立の高等学校や神奈川県立の大学等と協力しボランティア活動を継続して行っている。
3-1-4	保護者や地域社会、関係機関等との連携協力の状況	幼稚部・小学部・中学部の幼児児童生徒は、近隣の幼稚園・小学校・中学校と交流学习を行っている。隣接する和洋女子大学の教員や学生からは学習支援を受けている。本校からは介護等体験についての指導や学生を受け入れなどを行った。また、教職員・児童生徒・保護者が町内会と協力し、地域の清掃活動に参加した。この活動は地域の方々から大変喜ばれている。
5-1-5	安全点検（通学路の安全点検を含む）や、教職員・児童生徒の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	通学路の安全点検は、近隣の小中高等学校の教職員、学校教職員と協力滋賀柄行っている。幼児やその保護者には、交通安全に対する意識を高めることを目的に、警察署員協力の下、交通安全教室を行っている。
8-1-1	授業研究の継続的实施など、授業改善の取組の状況	教員個々の授業力向上を目的に、各学部において研究授業会を実施した。授業改善や教材教具に関する研究は研究紀要にまとめ、全国の聴覚特別支援学校や教員養成課程を持つ大学、特別支援教育総合研究所等に配布した。
10-1-2	学校公開の実施の状況	基本的に、通年において学校を公開している。全国の聴覚障害幼児児童生徒の教育相談の他、特別支援学校教職員や聴覚障害教育に関係する諸団体、海外の研究者や学生の来校も多い。年間行事として、高等部専攻科の公開や体験学習ができる日を設定している。
10-1-6	情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	聴覚障害教育の専門性の継承と発展を目的に、季刊誌「聴覚障害」を年4回発刊した。学校要覧の他に、乳幼児教育相談事業や高等部専攻科の教育活動を伝えるためのリーフレットを配布した。ホームページは312回更新し、保護者や卒業生等から好評を得ている。
11-1-4	学校評議員やPTA（保護者）との懇談の実施状況や学校運営協議会の運営状況	学校評議員会1回、PTA会議7回、卒業生親の会の会議2回、その他、PTAと卒業生親の会合同の研修会を実施した。PTA役員とは、学校運営に関わる課題を共有し、支援体制ができています。
14-1-4	教員養成・教師教育	筑波大学、千葉県教育委員会、関東地区聾教育研究会等が主催する講習会や研究会に多くの教員が参加し自己研鑽に努めた。校内では、学部毎に授業研究会を実施した。全教職員を対象に大学教員らを講師として引き研修会を実施した。個人研究としては日本学術振興会が行っている科学研究費助成事業に多くの教員が応募し、そのうち7件が採択された。